

「海外英語演習」の思い出

英語英文学科 名誉教授 吉田恒義

本学英語英文学科は教育理念・目標の一つとして「真の国際感覚を身につけた人材を育成する」こととしている。こうした教育理念・目標に沿って、国際交流を英語教育の中に生かしていくために、平成3年度に入ってから専門教育科目のカリキュラム改正を試みた。国際交流、アメリカの大学、異文化体験、英語コミュニケーション、単位認定等をキーワードにして、実用英語科目の中核にふさわしい「海外英語演習」という新科目を組み入れたカリキュラム改正案を私は学科の中心となって作成した。

「海外英語演習」プログラムは岐阜市の姉妹都市である米国シンシナティ市郊外のトマス・モア大学において実施されることになり、平成5年7月、私は19名の学生の引率教員として、25日間の日程で渡米した。トマス・モア大学での滞在期間中に、岐阜市長の親書を携えて学生とともにシンシナティ市長を表敬訪問し、ミニ親善大使を務めた。またトマス・モア大学のスタッフと親交を深め、さらには数週間後に本学で行われる姉妹校締結調印式の打ち合わせを行った。平成5年8月、トマス・モア大学学長を本学に迎え、調印式を執り行った。英語英文学科長として調印式の行事を無事に成し遂げた時のことを今でもなつかしく思い出す。

姉妹校トマス・モア大学での「海外英語演習」は10年ほど続いたが、その後諸般の事情により、実施場所を平成17年度より米国カリフォルニア州立大学サンマルコス校に移して実施することとなり、私は初回の学生引率を行った。さらに5年後、平成22年にも引率を行った。カリフォルニアの真っ青な空、真っ青な海、カリフォルニア州立大学の美しい広大なキャンパス、大学スタッフたちのフレンドリーな態度、受講学生たちの生き生きとした表情が新鮮な思い出として私の心に焼き付いている。

学生たちにはホストファミリーとの生活、大学キャンパスでの現地学生たちとの交流体験、フィールドトリップを通じての異文化体験等々が一生の宝物として記憶に残るはずだ。「海外英語演習」がきっかけとなって、英語コミュニケーション能力の向上および異文化世界に対する理解力向上に向けての態度が一層積極的になることが期待される。

トマス・モア大学で最初に実施された「海外英語演習」科目は様々な問題点を克服して、カリフォルニア州立大学サンマルコス校で立派なプログラムとして根付いた。学生たちから毎年好評を博している「海外英語演習」科目の今後のさらなる充実と発展を祈っている。